

「金メダル」で感謝の



答えてくれた人

インタビューした人

永野美穂選手

愛媛県今治市出身。病気のため左手に障害を負う。2005年にアーチェリーを始め、2010年中国・広州アジアパラ大会で優勝、2012年ロンドン・パラリンピックで5位入賞。大同生命保険に所属

今宮冬羽さん

小学4年生の時、シブリの映画「ものけむ姫」を見て弓を射てみたいとアーチェリーをはじめる。週に1回、学校が終わった後にアーチェリー教室に通い、練習を重ねる

永野美穂選手(左)と今宮冬羽さん=東京都内のスポーツセンターで



アーチェリーを始めて大へん変だったこと、また良かったことは何ですか。

私は口で弦を引きます。弦の中央についたタブの材質や大きさによっては口の中を傷つけてしまいます。しかし、やわらかかったら弓を引く強さに耐えられず矢が飛びません。そうした試行錯誤が大変でした。良かったことは、いろんな人と出会えたことです。



弦の中央についたタブを奥歯でしっかりとかみしめる。左腕の代わりに口で一気に弦を引ききると数秒静止。ぱっと口を開くと、矢は50メートル先の的をめぐって勢いよく飛び出し、直径48センチの的の中心にささる=大同生命保険提供

新型コロナウイルスの感染拡大で1年延期され、今夏に開催予定の東京パラリンピックへの出場を目指すパラアーチェリーの永野美穂選手(42歳、大同生命保険所属)に、中学3年生の今宮冬羽さん(15)がインタビューしました。

数ある障害者スポーツの中からアーチェリーを選んだきっかけを教えてください。

もともとスポーツが大好きだったのですが、20歳前に原因不明の病気になる、左腕が動かせなくなりました。26歳の頃に地元のスポーツ施設のアーチェリー教室を見学しました。「アーチェリーの弓は手で引くものだ」という固定観念があったので、自分には難しいかなと思いましたが、口を使って矢を射る方法があると聞き、競技を始めました。

私は左手が使えませんので、試行錯誤を繰り返した結果、口で弦を引く方法にたどり着きました。アーチェリーは、的に当たれば楽しいですし、当たらなかつたら悔しくて、もっとうまくなりたいと思って練習するようになります。そうやって「極めていく」楽しさがあります

気持ちを伝えたい

奥歯にかかる重さはどれくらいですか。

奥歯にかかる重さは20キロ以上です。びっくりされるかもしれませんが、重い物を持ち上げたり、瞬発的に力を使ったりするスポーツでは、選手の奥歯にかかる力は自分の体重ぐらい、といわれています。私も最初は10ポンド(約4.5キロ)ぐらいから始めましたが、練習すれば、引く力がどんどん強くなっていきました。



並んで30メートル先の的を狙う永野選手(手前)と今宮さん

どのように集中力を鍛えていますか。

すごく難しい質問ですね。悩みごとが少しでもあると気になってアーチェリーに集中できないので、アーチェリー以外の生活の部分での悩みごととはすべて解決するようにしています。たとえば、宿題を残したまま練習に行くとか「練習の後、宿題をしなければならぬ」との考えが頭をよぎって集中できないよね。だから、ちょっとでも悩みごとがあれば、それを解決するようにしています。あと、アーチェリーがうまくなるには「楽しい」と思うことが一番大事です。いやいややっている集中できないし、絶対うまくなりません。



パラリンピックに向けての抱負を教えてください。

まだ出場できるかは決まっていますが、決まったらという前提で話をします。パラリンピックに出たら「金メダル」をとります。「念ずれば花ひらく」という言葉がありますが、夢とか目標は「こうしたい」と思い続けたいかなありません。夢を実現するために、「私は金メダルをとります」と言いきります。アーチェリーを通してさまざまな人たちとの出会いがあり、その人たちに助けてもらったり応援してもらったりして「今」があります。良い結果を出すことが一番の恩返しになると思っています。恩返しできるように頑張ります。



上: 弓を射る今宮さん(左)のポーズを後ろから見守る永野選手
下: 「肩が上がってしまう」と永野選手(左)に相談する今宮さん

アーチェリー パラリンピックの原点

障害の度合いや弓の種類、性別によって種目が分かれる。弓はオリンピックでも使用する「リカーブ」のほか、弓の上下にカム(滑車)が付き、より少ない力でも弓を引ける「コンパウンド」がある。1948年、イギリスのストーク・マンデビル病院で傷病兵のリハビリの一環として開かれた単いすアーチェリー大会が、パラリンピックの原点といわれている。

取材の感想

困難にぶつかった時、楽しいと思うこと、夢と目標を持ち続けることが大切だと感じました